えぇ〜めんどくさい

マエダルマ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

えぇ～めんどくさい

【Ｎコード】

Ｎ８０１７Ｘ

【作者名】

マエダルマ

【あらすじ】

めんどくさがりの主人公に起こる様々な出来事を解決していく話です。バトルや笑いなどの要素もあり、主人公最強ものです。

プロローグ

俺の名前は見中　央太。
俺のいる世界では魔法が当たり前に存在している。まぁ、もちろん使えない人もいない訳ではない。使えたとしても、魔法は属性魔法と無属性魔法があり、属性魔法は一人一種類しか使えず、魔法は火、水、電気、風、土、草、召喚術の7つある内のどれかである。俺はまぁ、いろいろだな、うん。そして無属性魔法は誰でも使えるものである。
俺は今、日本にいくつかある魔法学校の、第9魔法学園の一年生である。
まぁ、軽い気持ちで入ってしまったのだが、俺の予想とは異なる生活が待っていた。

学園へいこう?

「ふぁ～あ」
大きな欠伸しながら俺の目は覚めた。只今、午前6時である。
いつもは、こんなに早く起きないのだが、今日は入学式ということもあって、姉貴が早く起こしたのだ。
ふと、横に違和感を感じて見てみると、女の子が一人俺のベッドで気持ち良さそうに寝ている。
その女の子は、水色の髪を腰まで伸ばしていて、顔は百人中百人が振り向く程の美少女だ。
俺が起きたことを感じ取ったのか、その子も体を起こして、

「お兄ちゃん、おはよう。」
と、俺にいった。
「また、お前忍び込んだのか?」
と聞くと、
「何言ってるの?お兄ちゃん。私とお兄ちゃんは一心同体なんだから同じベッドで寝るのは、当たり前じゃない。」
といきなり頭の痛い発言をしてきた。
まぁ、いつものことなので気にせず朝食の用意がされているであろうリビングに降りていった。

ちなみにさっきの女の子は俺の妹である見中(みなか)　真(まこと)という子でちょっとした、いや、かなりのブラコンである。年は俺と同い年だが双子という訳ではない。そして、俺には、姉貴がいて、彼女の名前は見(み)中(なか)　雫(しずく)
真と同じように水色の髪をもつかなりの美人であるのだが・・・
「央君おはよ～!」と言いながら、いきなり抱きついてきた。
そう、この人もここが問題なのだ。真と同じ、かなりのブラコンで

ある。
やれやれと思いながら、姉貴をはがして席につき朝食を食べ始めた。ちなみに俺の両親は今、海外へ赴任中で俺たち三人しかいない。と思っている内に姉貴が俺の方をみてニヤニヤしていることに気付いた。あまりにも気持ち悪かったので理由を聞いてみると、
「だって、これから毎日、央君と一緒に学園まで行けるじゃない。」
といってきた。俺ははいはい、そうですかと軽く受け流し、食べ終わったので皿を片付けようとしていたら、姉貴が俺を呼び止めた。いったいどうしたのだろう？と思って振り返ると、
「ご飯粒ついてるよ」といって、俺の頬についたご飯粒をとって、そのまま口に持っていきそれを食べた。
まじかよ。
普通ここまでするか？おっと、うちは普通じゃないんだった。でもなんとなく恥ずかしかったので、ちらりと姉貴の方を見てみると、姉貴は嬉しそうにニコニコしていた。だが、急に殺気を感じたのでそちらの方を見てみると、俺の後ろで手を握りしめたまま真が震えながら立っていた。そして次の瞬間、
「お姉ちゃん、ずるい。お兄ちゃんについたご飯粒食べるなんて！そんなことするなら、私はお兄ちゃんを直接なめるもん！」
いや、妹よそれは違うんじゃないか？と思っていると、
「別にいいんじゃない？そしたら、私も思う存分できるし。」
と、姉貴が言った。
おいおい、あんたら頭大丈夫か？もう病院行ってこいよ。とか、考えていると、
「ダメだよ。お兄ちゃんは、私の物なんだから。」
と姉貴に向かって言っていた。もうツッコム気もねぇや。
「あなたこそダメよ。央君は私の物なんだから。」
と姉貴が言い返していた。そのままお互いにらみあったまま、真が突然手を前の方につきだして

「水よ私の刃となり切り裂け、アクア・スラッシュ」
とまさかの、呪文を唱えてきた。それは三日月型を描いて姉貴に向かって行った。しかし、姉貴も全く同じタイミングで同じ呪文を唱えていて、２つの魔法はぶつかり消えた。
真も姉貴ももう新しい呪文を唱えていた。姉妹喧嘩で魔法使うとか、どんだけなんだよ。と思いながら、俺は学園にいく準備をしていた。

学園へいこう？（後書き）

ぜひ、感想をお聞かせください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8017x/

えぇ〜めんどくさい

2011年10月22日02時19分発行